

かけはし

黄の1組
～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、黄の1組で展開されている遊び、その遊びが始まったきっかけなど、ご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

クラスで読んだ絵本、「からすのパンやさん」のお話が大好きになった子どもたち。教室を絵本に出てくる“いずみがもり”みたいになりたいと、いろいろなお店屋さんをつくっています。その中で、「かたい段ボールはおうちづくりに使おう」「新聞紙は形がかわるからいろんなものがつくれそう」「和紙ってザラザラとすべすべしてるところがあるね」など、素材の特性に気づきながら、「からすのパンやさん」の世界をイメージして、たくさん遊びをつくりだしています。

★ からすのパンやさん★

自分たちでつくったおうちをパンやさんにしたいと思ったことがきっかけの遊び。



大きな段ボールを見つけた子どもたち。「これでおうちをつくってみたい!」と、ラップの芯などを組み合わせておうちづくりははじめました。



ふかふかの素材を探そう!

つくったおうちをパンやさんにしたいという意見が出て、新聞紙を丸めたり、長くしたりしてパンづくりがはじまりました。形が出来上がると、「パンだからもっとふかふかにしたい」と、ふかふかの素材探しもはじまりました。



エアパッキンのプチプチの中には、空気が入っているんだよ。

素材のコーナーからエアパッキンを発見し、それを新聞紙でつくったパンに巻き付けることに。すると、新聞紙だけでつくったパンよりふわふわの手触りになりました。さらに、色をつけた和紙も貼っておいしそうなパンがたくさん出来上がりました。

★ からすの輪投げやさん★

新聞紙を丸めたり輪にしたりして遊んだことから生まれた遊び。



新聞紙で遊んでいると、「ドーナツみたいな形ができた」「輪投げの輪っかみたいだね」「これで輪投げやさんをしよう!」と、遊びがはじまりました。



「かわいい輪投げにしたい」と新聞紙でつくった輪に折り紙を巻いていくことに。折り紙を巻いた輪投げは新聞紙だけのものよりも固くなり、『紙は重ねると強くなる』ということを知ることができたようでした。



現在は、「もっと遠くに的を置いて輪投げのゲームを難しくしたい」という意見が出てきて、遠くの的まで輪投げが届くよう、ゴムの力で遠くまで飛ばす輪投げにしようと考えています。

★ からすの魚釣りやさん★

「みんなで遊べるゲームのお店をもっとつくりたい」という子どもの声から生まれた遊び。



赤組(3歳児)の頃ペットボトルのキャップをつかって金魚釣りゲームをつくった経験から、魚釣りの魚づくりにはペットボトルのキャップを使おうという意見が。



「たくさんのお魚で魚釣りがしたい」と、ペットボトルキャップを集めてビニールテープで張り合わせ、小さな魚をたくさんつくっていきました。



「釣り竿が必要だね」「お魚が泳ぐ池もつくろう!」「ペットボトルは透明でキラキラ光ってお水みたいに見えるから、これを池にしよう!」などとアイデアが広がり、魚釣りやさんがはじまりました。

★ からすのプレゼント製作所★

魚釣りやさんの魚がなくなってしまったことから生まれた遊び。



お魚がいなくなっちゃった…。どうしよう…。

当初からすの魚釣りやさんでは、釣った魚を持ち帰っていました。するとだんだんと魚がなくなっていき、ゲームができなくなってしまいました。



新聞紙をお水で溶かそう! シャカ シャカ!

「じゃあ、釣った魚を素敵なものと交換してあげたらいいかも!」と、プレゼントをつくることに。「プレゼントは紙でつくりたい!」素材を探究する中で『紙は水に溶かすことができ、乾くと違う形にもなる』と知った子ども達は新聞紙を溶かしはじめました。



新聞紙がいろいろな形になって面白いね!

溶かした新聞紙をチョコレートの型にはめて乾かすと、かわいい形がいくつもできて、子どもたちは「大成功!」と大喜び。「交換した人、喜んでくれるかな?」と、毎日のようにかわいいプレゼントを製作しています。

★ いずみがもり図書館★

1学期から遊んでいた大好きなおうちで本を読みたいという意見が出たことから生まれた遊び。



1学期に山梨学院短期大学の学生さんたちがつくってくれた大きなお家。そのお家にクラスみんなで模様を描き、生き物のなりきりごっこで“虫さんのお家”として遊びにつかっていた。最近では大好きな本をゆっくり読んだり、図鑑を開いて探究で知りたくなったことを調べたり、仲良くお話をしたりする図書館になりました。

